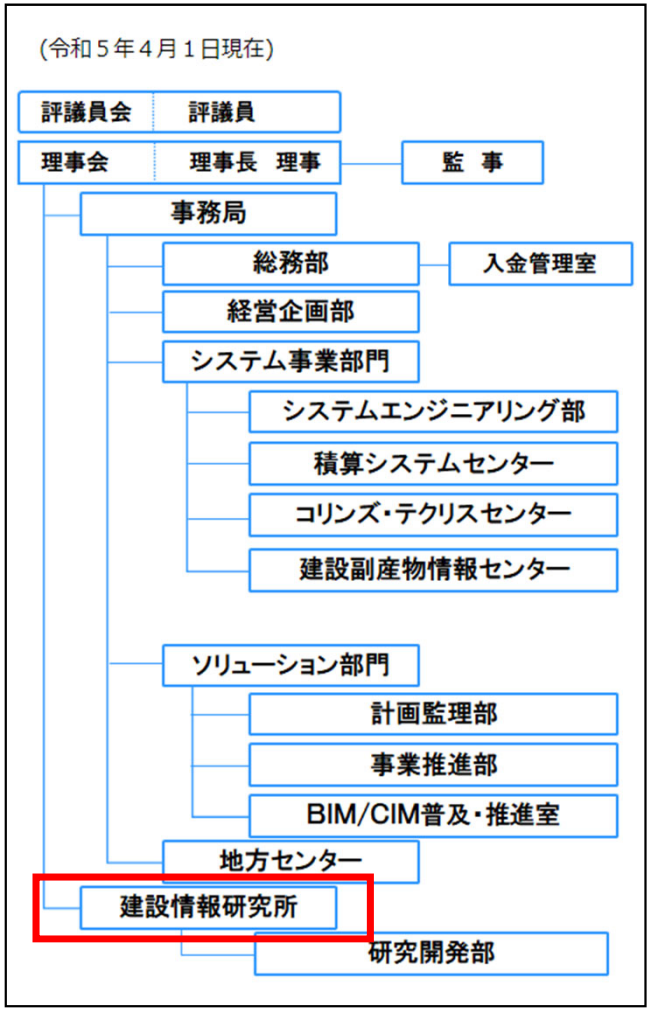
研究助成について

建設情報研究所　研究開発部　山本莉子

発表の流れ

- JACICの研究助成とは
- これまでの助成結果について
- 研究助成実施の流れ
- 今後について

JACICの研究助成とは



(一財)日本建設情報総合センター定款（抜粋）

第２章第３条

この法人は、建設事業の円滑な執行に資する情 報システム (以下「建設情報システム」という。)の 調査研究、開発・改良及び運用・保守並びに建設 情報の提供を行うとともに、これを広く普及することにより、**建設技術の向上**、**建設事業の効率化**、 **国土の安全かつ有効活用の促進**を図り、もって国 民生活の高度化及び経済の活性化に寄与することを目的とする。

上記の定款に基づいて建設情報研究所で実施している

JACICの研究助成とは

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

当財団の研究助成は平成10年に開始し、本年度で26年目

日本建設情報総合センター研究助成の経年変化

番号	年度	応募件数		採択件数		採択助成額	
		年度	累計	年度	累計	年度	累計
1	平成10年度	1	1	1	1	2,000,000	2,000,000
2	平成11年度	2	3	1	2	2,000,000	4,000,000
3	平成12年度	4	7	4	6	6,000,000	10,000,000
4	平成13年度	6	13	4	10	8,000,000	18,000,000
5	平成14年度	14	27	10	20	18,130,000	36,130,000
6	平成15年度	22	49	9	29	17,640,000	53,770,000
7	平成16年度	25	74	10	39	26,920,000	80,690,000
8	平成17年度	23	97	13	52	27,106,700	107,796,700
9	平成18年度	40	137	12	64	29,327,400	137,124,100
10	平成19年度	46	183	12	76	27,474,000	164,598,100
11	平成20年度	41	224	11	87	19,945,000	184,543,100
12	平成21年度	34	258	11	98	21,626,500	206,169,600
13	平成22年度	31	289	18	116	36,216,064	242,385,664
14	平成23年度	43	332	9	125	20,094,800	262,480,464
15	平成24年度	32	364	8	133	12,740,000	275,220,464
16	平成25年度	32	396	9	142	16,751,560	291,972,024
17	平成26年度	50	446	17	159	53,283,000	345,255,024
18	平成27年度	55	501	21	180	66,296,022	411,551,046
19	平成28年度	61	507	16	196	52,106,300	463,657,346
20	平成29年度	24	531	9	205	21,458,341	485,115,687
21	平成30年度	15	546	4	209	17,967,270	503,082,957
22	令和1年度	29	575	6	215	18,327,490	521,410,447
23	令和2年度	9	584	4	219	12,906,401	534,316,848
24	令和3年度	8	592	4	223	9,700,000	544,016,848
25	令和4年度	19	611	7	230	15,605,000	559,621,848
	平均(R4年まで)		24.4		9.2		22,384,873.9

JACICの研究助成とは

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

当財団の研究助成は平成10年に開始し、本年度で26年目

日本建設情報総合センター研究助成の経年変化

番号	年度	応募件数		採択件数		採択助成額	
		年度	累計	年度	累計	年度	累計
1	平成10年度	1	1	1	1	2,000,000	2,000,000
2	平成11年度	2	3	1	2	2,000,000	4,000,000
3	平成12年度	4	7	4	6	6,000,000	10,000,000
4	平成13年度	6	13	4	10	8,000,000	18,000,000
5	平成14年度	14	27	10	20	18,130,000	36,130,000
6	平成15年度	22	49	9	29	17,640,000	53,770,000
7	平成16年度	25	[illegible]	10	39	[illegible]	[illegible]
8	平成17年度	23	97	13	52	27,106,700	107,796,700
9	平成18年度	40	[illegible]	[illegible]	64	[illegible]	[illegible]
10	平成19年度	46	183	12	76	27,474,000	164,598,100
11	平成20年度	41	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
12	平成21年度	34	258	11	98	21,626,500	206,169,600
13	平成22年度	31	[illegible]	18	116	[illegible]	[illegible]
14	平成23年度	43	332	9	125	20,094,800	262,480,464
15	平成24年度	32	364	8	133	[illegible]	[illegible]
16	平成25年度	32	396	9	142	[illegible]	[illegible]
17	平成26年度	50	446	17	159	53,283,000	345,255,024
18	平成27年度	55	501	21	180	66,296,022	411,551,046
19	平成28年度	61	507	16	196	52,106,300	463,657,346
20	平成29年度	24	531	9	205	21,458,341	485,115,687
21	平成30年度	15	546	4	209	17,967,270	503,082,957
22	令和1年度	29	575	6	215	18,327,490	521,410,447
23	令和2年度	9	584	4	219	12,906,401	534,316,848
24	令和3年度	8	592	4	223	9,700,000	544,016,848
25	令和4年度	19	611	7	230	15,605,000	559,621,848
	平均(R4年まで)		24.4		9.2		22,384,873.9

4 219 12,906,401 534,316,848

4 223 9,700,000 544,016,848

7 230 15,605,000 559,621,848

9.2 22,384,873.9

令和4年までの

累計採択件数：230件

累計採択助成額：約5.6億円

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

平成16年より、JACICから指定課題を提示した上で公募

平成17年
指定課題

【指定課題】：総応募数　23件

1. データモデルに関する研究
   1-1プロダクトデータモデル構築　：3件
   1-2空間データ流通　：1件
   1-3地下空間・地下構造物のデータモデルに関する研究　：0件
2. 現場における2次元CADデータ交換標準（SXF）活用に関する研究：3件

【自由課題】

1. 建設分野の情報化の企画、提案、標準化に関する研究
2. 建設分野の各種業務の情報化に関する研究

：16件

平成20年
指定課題

【指定課題】：総応募数　41件

1. 建設分野のプロダクトデータモデルの構築に関する研究：4件
2. 3次元CADの利用に関する研究　：5件
3. 国土に関する地理空間情報の有機的連携による新たな価値の創出：7件

【自由課題】

1. 建設分野の情報化の企画、提案、標準化に関する研究：5件
2. 建設分野の各種業務の情報化に関する研究：20件

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

平成10年代採択テーマの傾向

当時のJACICの業務と関連したCALS/ECについての研究テーマや地理情報システム（GIS）のワードが目立つ

年度	氏名	所属	テーマ
10	厳 綱林	武蔵工業大学環境情報学部	地域地震災害リスクマネジメントシステム構築方法に関する研究
11	田中 成典	関西大学総合情報学部	土木CAD製図基準の策定に向けての調査研究
11	裏戸 勉	松江工業高等専門学校	建設CALS/ECに関する調査研究
12	北原 武嗣		・統計的
12	古池 弘隆	宇都宮大学工学部建築学科	情報公開型の都市計画支援データベースの開発
12	土屋 十圀	前橋工科大学工学部	首都圏の水資源管理と水運用情報に関する研究
12	碓井 照子	奈良大学文学部	GISを利用した障害者対応型リスクヒューマンナビゲーションとバリアフリーデジタルマップの作
13	小林 潔		
13	池田 裕		
13	高田 龍		築
13	鹿田 正昭	金沢工業大学環境システム工学科	RTK―GPSを利用した「リアルタイムGIS」導入による電子地図管理の効率化に関する調査研究

建設CALS/ECに関する調査研究

GISを利用した障害者対応型リスクヒューマンナビゲーションとバリアフリーデジタルマップの作成・更新の研究

年度	氏名	所属	テーマ
17	若桑 朝之	株式会社岩根研究所 研究開発本部研究開発部	3次元全周囲動画映像による3次元GISと2次元GISの結合技術を建設分野に応用する調査研究
17	塩出		モ
17	後藤		ッ
17	北嶋 勝三	ジステック株式会社	仮［次世代CALS/ECのためのGISを利用した業務支援システムの確立］

3次元全周囲動画映像による3次元GISと2次元GISの結合技術を建設分野に応用する調査研究

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

平成10年代採択テーマの傾向

当時のJACICの業務と関連したCALS/ECについての研究テーマや地理情報システム（GIS）のワードが目立つ

年度	氏名	所属	テーマ
10	厳　網林	武蔵工業大学環境情報学部	地域地震災害リスクマネジメントシステム構築方法に関する研究
11	田中 成典	関西大学総合情報学部	土木CAD製図基準の策定に向けての調査研究
11	裏戸　勉	松江工業高等専門学校	建設CALS/ECに関する調査研究
12	北原　武嗣	群馬工業高等専門学校	地理情報システム（GIS）を用いた確率・統計的耐震性評価システムの開発
12	古池　弘隆	宇都宮大学工学部建築学科	情報公開型の都市計画支援データベースの開発
12	土屋　十圀	前橋工科大学工学部	首都圏の水資源管理と水運用情報に関する研究
12	碓井　照子	奈良大学文学部	GISを利用した障害者対応型リスクヒューマンナビゲーションとバリアフリーデジタルマップの作成・更新の研究
13	小林　潔司	京都大学大学院	社会資本管理のためのインフラ会計
13	池田　裕一	宇都宮大学工学部建築学科	中小河川での多自然型改修を支援するWeb－GISの構築と高機能化に関する基礎的研究
13	高田　龍一	松江工業高等専門学校	島根におけるCALS/ECと防災ネットワーク構築に関する調査研究
13	鹿田　正昭	金沢工業大学環境システム工学科	RTK－GPSを利用した「リアルタイムGIS」導入による電子地図管理の効率化に関する調査研究

年度	氏名	所属	テーマ
17	若桑　朝之	株式会社岩根研究所 研究開発本部研究開発部	3次元全周囲動画映像による3次元GISと2次元GISの結合技術を建設分野に応用する調査研究
17	塩出　徳成	ニューヨーク州立大学 バッファロー校 地理学科	三次元都市モデルの開発現状に関する調査、及びGISデータとの整合性を考慮した三次元モデルの構築・実証に関する研究
17	後藤　聡	山梨大学大学院 医学工学総合研究部	ボーリング調査によらない液状化ハザードマップの作成システムに関する研究
17	北嶋　勝三	ジステック株式会社	仮［次世代CALS/ECのためのGISを利用した業務支援システムの確立］

これまでの助成結果について

平成20年代採択テーマの傾向

- ３次元CAD、データベースの構築、データを活用したシステム開発に関する研究テーマが増えている
- 平成20年代後半は3次元点群データやCIMというワードも目立っている

21・22	伊藤		オープンソースGISを用いた地表・地下情報の作成・表示手法及びデータベース化に関する調査研究
22・23	須崎		次元建造物ムの構築
22・23	鹿田 正昭	金沢工業大学	測の標準化に関する調査研究
22・23	野口 貴文	東京大学	温度センサ・姿勢感知センサ付きICタグを搭載した再生樹脂型枠によるコンクリートの品質管理および型枠の運用管理に関する研究
22	窪田 諭	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部	道路維持管理における道路データモデルを核とする時空間情報ポータルの開発
22	板倉 賢一	室蘭工業大学大学院 工学研究科	トンネルのライフサイクルマネージメントに供するプロダクトデータモデルの研究
22	横山 功一	茨城大学 工学部	構造物健全度診断の効率化のための加速度センサICタグ多点観測システムの開発
22・23	佐田 達典	日本大学 理工学部 社会交通学科	センサ情報の標準化及び利活用に関する研究

年度	氏名	所属	テーマ
27	片岡 宏之	コスモ技研(株) ITソリューション事業部	鋼橋のCIM化に向けた実用的手法の研究
27	小林 潔司	京都大学経営管理大学院	ICTを活用した橋梁の維持管理技術の国際展開に関する研究
27	森 義将	日本ミクニヤ株式会社東京支店技術管理室	オープンソースGISによる多様な詳細降雨情報の一元管理と解析・共有に関する研究
27	三村 衛	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻	システムを適用したシームレス三次元地役モデルの構築
27	大屋 誠	松江工業高等専門学校・環境・建設工学科	高専におけるCIMに対応した建設技術者育成のためのカリキュラム構築に関する研究
27	奈良間 千之	新潟大学理学部自然環境科学科	ALOS-2/PALSAR干渉画像を用いた新潟県柏崎市における小規模地すべり群の分布と挙動に関する研究
27	東 善之	京都工芸繊維大学 機械工学系	鉄製橋梁等構造物へ吸着可能あUAVとCIM(3D-CAD)データに基づく自立型点検システムおよび維持用CIM(維持管理用DB)との連携に関する研究

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

平成20年代採択テーマの傾向

- ３次元CAD、データベースの構築、データを活用したシステム開発に関する研究テーマが増えている
- 平成20年代後半は3次元点群データやCIMというワードも目立っている

21･22	伊藤 俊秀	関西大学　総合情報学部	オープンソースGISを用いた地表・地下情報の作成・表示手法及びデータベース化に関する調査研究
22･23	須崎　純一	京都大学大学院　地球環境学堂	写真測量を用いた密集市街地の3次元建造物モデリングのための自動標定システムの構築
22･23	鹿田　正昭	金沢工業大学	地上型レーザースキャナーデータ計測の標準化に関する調査研究
22･23	野口　貴文	東京大学	温度センサ・姿勢感知センサ付きICタグを搭載した再生樹脂型枠によるコンクリートの品質管理および型枠の運用管理に関する研究
22	窪田　諭	岩手県立大学　ソフトウェア情報学部	道路維持管理における道路データモデルを核とする時空間情報ポータルの開発
22	矢吹　信喜	大阪大学大学院　工学研究科　環境・エネルギー工学専攻	3次元レーザースキャナとプロダクトモデルを用いた高精度の建設分野用屋外拡張現実感技術の開発
22･23	渡邊　邦夫	埼玉大学　地圏科学研究センター	人工知能理論を適用した写真測量の精度向上による建設工事及び建設物変形モニタリング技術の開発研究
22	板倉　賢一	室蘭工業大学大学院　工学研究科	トンネルのライフサイクルマネージメントに供するプロダクトデータモデルの研究
22	横山　功一	茨城大学　工学部	構造物健全度診断の効率化のための加速度センサICタグ多点観測システムの開発
22･23	佐田　達典	日本大学　理工学部　社会交通学科	センサ情報の標準化及び利活用に関する研究

年度	氏名	所属	テーマ
27	片岡　宏之	コスモ技研(株) ITソリューション事業部	鋼橋のCIM化に向けた実用的手法の研究
27	小林 潔司	京都大学経営管理大学院	ICTを活用した橋梁の維持管理技術の国際展開に関する研究
27	森 義将	日本ミクニヤ株式会社東京支店技術管理室	オープンソースGISによる多様な詳細降雨情報の一元管理と解析・共有に関する研究
27	沢田　和秀	国立大学法人岐阜大学・工学部	地形データアーカイブ整備による建設および災害復旧支援
27	國島　正彦	高知工科大学地域連携機構新公共工事システム研究室	工事日報を活用した新しい施工プロセス検査及び歩掛り調査手法の開発
27	三村　衛	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻	物理探査によるボーリングデータ空白域の補完システムを適用したシームレス三次元地役モデルの構築
27	大屋　誠	松江工業高等専門学校・環境・建設工学科	高専におけるCIMに対応した建設技術者育成のためのカリキュラム構築に関する研究
27	奈良間　千之	新潟大学理学部自然環境科学科	ALOS-2/PALSAR干渉画像を用いた新潟県柏崎市における小規模地すべり群の分布と挙動に関する研究
27	東　善之	京都工芸繊維大学　機械工学系	鉄製橋梁等構造物へ吸着可能あUAVとCIM(3D-CAD)データに基づく自立型点検システムおよび維持用CIM(維持管理用DB)との連携に関する研究

これまでの助成結果について

一般財団法人 日本建設情報総合センター

令和４年指定課題

【指定課題】

1. 建設情報の標準化に関する調査研究
2. ３次元モデルや３次元データの活用による建設生産性向上、維持管理の効率化・高度化に関する研究
3. 建設分野におけるデータベース、データプラットフォームの活用に関する調査研究
4. ICT等に関する技術（AI、IoT、VR、AR、センシング技術、画像処理技術等）の建設分野における活用に関する調査研究
5. 建設分野の各プロセス（調査、設計、施工、維持管理、防災対応等）におけるICT活用に関する研究
6. 建設分野の情報技術者の育成に関する調査研究
7. 市民学習（インフラ整備・管理や防災等）への活用に関する調査研究
8. その他（上記①～⑦以外で、当財団の業務に関連する課題）

令和４年の応募件数内訳

	研究課題	応募件数	内訳		
			1年	2年	若手
①	建設情報の標準化に関する調査研究				
②	３次元モデルや３次元データの活用による建設生産性向上、維持管理の効率化・高度化に関する研究	2		1	1
③	建設分野におけるデータベース、データプラットホームの活用に関する調査研究	1		1	
④	ICT等に関する技術（AI、IoT、VR、AR、センシング技術、画像処理技術等）の建設分野における活用に関する調査研究	5	3	1	1
⑤	建設分野の各プロセス（調査、設計、施工、維持管理、防災対応等）におけるICT活用に関する研究	2	2		
⑥	建設分野の情報技術者の育成に関する調査研究	1	1		
⑦	市民学習（インフラ整備・管理や防災等）への活用に関する調査研究	1	1		
⑧	その他（上記①～⑦以外で、当財団の業務に関連する課題）	1	1		
	合計	13	8	3	2

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

平成30年～令和4年採択テーマの傾向

年度	氏名	所属	テーマ
31	石塚 師也	京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻	【若手】変位測量情報高度化のための衛星SAR時系列解析の活用に関する研究
31	松實 崇博	東京大学 工学系研究科	道路管理の効率化に向けたデータプラットフォームを活用したデータの利活用
31	西嶋 一欽	京都大学防災研究所　気象水象災害研究部門	風洞と連動したハイブリッド型強風体験VRコンテンツの開発
31	小澤 一雅	東京大学大学院　工学系研究科	3次元モデルを活用した許認可図書審査の自動化システム構築手法
31	山下 淳	東京大学大学院工学系研究科　精密工学専攻	画像・音響信号マルチモーダル処理を用いたコンクリート構造物の自動点検
32	山崎 俊夫	函館工業高等専門学校 社会基盤工学科	国土交通データプラットフォームの構築に資する広域地形モデルの制作に関する，テレワーク時代に対応可能な業務モデルの提案
32	杉本 知史	長崎大学大学院 工学研究科	無線センサネットワークシステムを応用したIoT技術による屋外多点計測手法の実装のための調査研究
32	全 邦釪	東京大学大学院工学系研究科 総合研究機構 i-Constructionシステム学寄付講座	既存橋梁の2次元図面の意味解釈を通した3次元CIMモデル自動生成手法の提案
32	秀島 栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科	人間中心設計的アプローチによるBIM/CIM人材育成過程の設計と検証
33	大屋 誠	松江工業高等専門学校 環境・建設工学科	建設DXのための建設技術者育成に関する研究
33	山中 稔	香川大学創造工学部 環境デザイン工学領域	常時微動探査による地層区分を援用した城郭三次元地盤図の構築
33	岡辺 拓巳	国立大学法人 三重大学 水産実験所	海岸の順応的管理に向けたハイブリッド地形データの活用に関する研究
33	秋山 充良	早稲田大学 理工学術院創造理工学部 社会環境工学科	ドローン・機械学習・3次元構造解析・信頼性理論の融合による劣化RC橋梁の健全度の自動判定

- ICT技術関連技術、建設生産性向上、データ活用関連の研究が多くみられる
- 民間の企業や団体よりも大学、高専などの教育機関からの応募が多数
- 平成29年より若手枠を設けてからは一定数若手枠への応募、採択もある

これまでの助成結果について

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

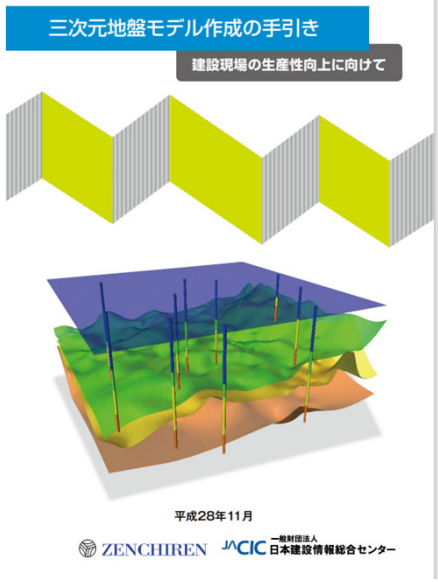
過去の研究テーマとその後

平成26年採択

一般社団法人全国地質調査業協会連合会専務理事　土屋彰義

「CIMに対応するための地盤情報共有基盤ならびに三次元地盤データモデル標準の検討」

→報告書を「三次元地盤モデル作成の手引き」という題名でガイドブックとして再編集し全国地質調査業協会連合会より公開



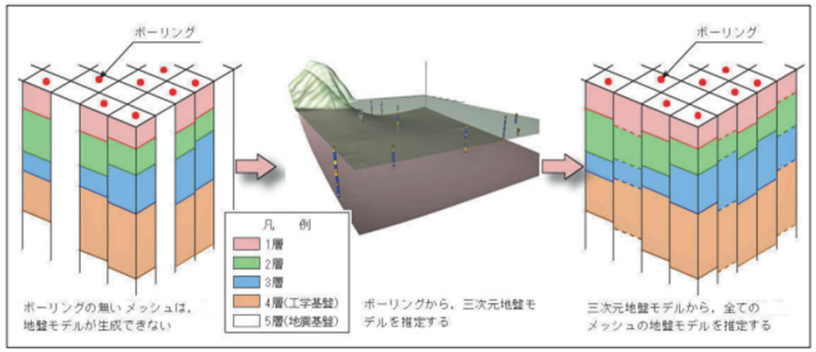
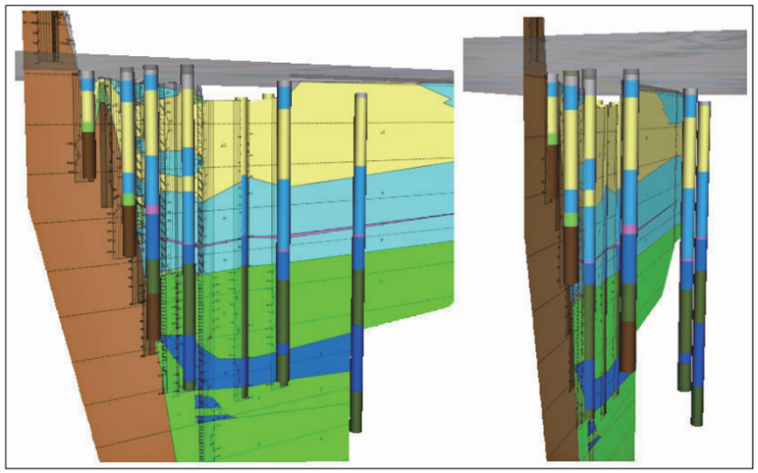


図-8.9.1 調査段階での地震動予測における三次元地盤モデルのイメージ

【参考】研究の過程で作成した準三次元断面図（形状データ）



地質断面図とその作成のために使わなかったボーリングを同時に表示している（右の２本）

sanjigen.pdf (zenchiren.or.jp)

これまでの助成結果について

過去の研究テーマとその後

平成28年採択

中央大学・理工学部都市環境学科　樫山和男　教授

「地域防災教育のためのVR技術に基づく水害疑似体験システムの構築」

→高知県中土佐町久礼地区をモデルに約5年かけシステムを開発

→開発したシステムを使用し、同町の中学校にて防災教室を開いている

図-7　地形・構造物モデルとの統合

図-16 動画を閲覧している様子

https://www.asahi.com/articles/ASLDQ42JPLDQPLPB001.html

研究助成実施の流れ

令和5年3月13日より、以下の方法で**公募を開始**

〇JACICホームページに公募案内を掲載。

〇JACIC news 4月号（No.407　4月1日発行）に公募概要を載。

〇土木学会誌に公募について掲載。

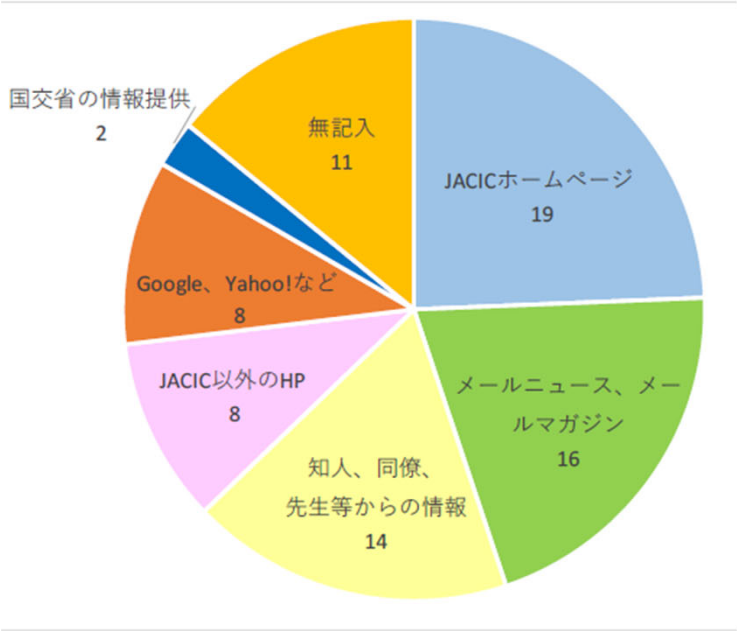
〇関係機関のメーリングリスト又はメールニュースを通じて周知。

・土木学会情報学委員会
・日本都市計画学会
・日本建築学会
・写真測量学会
・GIS学会
・日本地すべり学会
・砂防学会
・情報処理学会
・応用生態工学会
・地盤工学会
・土木学会

（参考）公募情報入手先集計結果

研究助成の情報入手先（アンケート N=78）	
1. JACICホームページで知った	19
2. 検索サイト（Google、Yahoo! など）	8
3. メールニュース、メールマガジン	16
日本写真測量学会	(1)
土木学会メーリングリスト	(3)
日本都市計画学会	(1)
地盤工学会	(1)
応用生態工学会	(4)
SICE日本機械学会	(1)
日本建築学会	(1)
GIS学会	(1)
大学配信	(2)
無記入	(1)
4. JACIC以外のホームページで知った	8
助成財団センター	(2)
日本建築学会	(4)
大学の助成金情報ページ	(1)
無記入	(1)
5、知人、同僚、先生等からの情報	14
6. その他（土木学会誌・学内案内）	2
7. 無記入	11
合計	78

R4=96　R3=86、R2=72、H31=126、H30=122



研究助成実施の流れ

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

令和5年**公募結果**　（審査委員会を実施し採択テーマを決定）

期間・金額	研究助成対象者（敬称略）	研究テーマ
2 年間 600 万円以内	静岡理工科大学理工学部 土木工学科 教授　中澤 博志	城郭石垣の維持や施工管理における新たな計測機器の開発
1年間 300 万円以内	立命館大学理工学部 准教授　福山 智子	建設用3Dプリンタ造形物における異方性を考慮した最適化設計ワークフローの構築と検証
	山口大学大学院創成科学研究科環境共生系専攻 准教授　渡邊 学歩	地域企業の建設DX推進人材育成のためのリスキリング教育実践に関する調査・研究
1年間 100万円以内	東京電機大学理工学部 建築・都市環境学系 教授　中井 正則	河道内流木群の流下過程を予測する機械学習モデルの構築と治水計画への活用
	高知大学自然科学系理工学部門 講師　坂本 淳	先進的ICT技術を援用した災害復旧プロセスの検討
	高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科 准教授　池田 雄一	免震建物に設置されているけがき式変位計による地震観測の経時特性を補完計測する加速度センサーマイコンボード（IoT装置）の開発とその実装
	産業技術短期大学情報処理工学科 講師　櫻井 健一	ボーリングデータを用いた3次元可視化および地層対比システムの構築
1年間 100万円以内	愛知学院大学総合政策学部 専任講師　二神 拓也	深層学習を用いた建造物領域抽出の改良
	名古屋大学大学院工学研究科 助教　周 月霞	航空レーザ測量データ(ALB)を活用した河道内樹木の解析

- 審査委員会を開催して応募案件の評価を実施
- 令和5年は応募のあった11件中9件を採択
- 若手枠についても2件採択
- 応募者の所属については11件すべてが大学等の教育機関

研究助成実施の流れ

JACIC 一般財団法人 日本建設情報総合センター

研究開始～研究助成事業成果報告会

- 採択決定後、JACIC担当者と打ち合わせを重ね、1年間または2年間の研究を進めて頂く
- 1年に1回JACICで主催する研究助成事業成果報告会へ出席いただき成果発表を行う

今後について

・学会など外部組織との連携による研究
・新たな分野・研究テーマへの助成
・JACIC業務内容の広報の工夫

今後について

建設技術の向上、建設事業の効率化、国土の安全と有効活用促進に資するため、今後も幅広い組織・研究テーマへの助成をしていくことを考えています

来年以降も引き続き多くの応募をお待ちしています

ご清聴ありがとうございました